

しんぎ かいぎ けつか
審議（会議）結果

しんぎかいとうめいしょう 審議会等名称	だい かいかながわけんしょうがいしやせさくしんぎかいしょうがいとうじしやぶかい 第5回神奈川県障害者施策審議会障害当事者部会
かいさいにちじ 開催日時	れいわ ねん がつ にち かようび じ じ 令和7年5月27日（火曜日） 14時から16時まで
かいさいばしょ 開催場所	かながわけんちやうしんちやうしや かい だい かいぎしつ さんか あ 神奈川県庁新庁舎5階 第5会議室（オンライン参加有り）
しゅつせきしや 出席者	ぶかいちやう ないとういいん い か めいぼじゆん う つ ぎ いいん おやまいいいん 【部会長】内藤委員、（以下名簿順）宇都木委員、尾山委員（※）、 こにしいいん こやまいいいん さるわたりいいん しもじやういいん せきいいん たかのいいん 小西委員、小山委員、猿渡委員、下条委員、関委員、高野委員、 たかはしいん た が や いいん とみたいいん ならざきいいん はんざわいいん ゆみや 高橋委員、多賀谷委員、富田委員、奈良崎委員、榛澤委員、弓矢 いいん けい にん 委員（※）（計15人） (※) おやまいいいん およ ゆみやいいん とうじつごけつせき 尾山委員及び弓矢委員は当日御欠席でしたが、別途意見をいただいています。
じかいかいさいよていび 次回開催予定日	みてい 未定
しよぞくめい たんとしやめい 所属名、担当者名	しょうがいふくし かきかく わたなべ 障害福祉課企画グループ 渡邊
といあわ さき 問合せ先	でんわ 電話（045）285 - 0528 ファクシミリ（045）201 - 2051
けいさいけいしき 掲載形式	ぎじろく 議事録
しんぎけいか 審議経過	い か 以下のとおり

ぎ だい
《議題》

- だんたい かつどう しやかい はっしん
(1) 団体の活動の社会への発信について
- しょう とうじしや してん はたら かんが
(2) 障がい当事者の視点から「働くこと」を考える

ほう こく
《報告》

- しょう しやしゅたい かつどう おこな だんたい しえん
(1) 障がい者主体の活動を行う団体への支援について
- かながわけんとうじしやめせん しょうがいふくしすいしんじやうれい い しやかい め ぎ
(2) 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～
もと きほんけいかく
に基づく基本計画について

はいふしりやう
《配布資料》

しりやう だんたい かつどう しやかい はっしん
資料1：団体の活動の社会への発信について

しりやう しょう とうじしや してん はたら かんが
資料2：障がい当事者の視点から「働くこと」を考える

ほうこくしりやう しょう とうじしやだんたい かつどう しえん
報告資料1：障がい当事者団体の活動を支援します！

ほうこくしりやう とうじしやめせん しょうがいふくしすいしんじやうれい い しやかい め ぎ
報告資料2：「当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～
もと きほんけいかく しひやう ちやうさ
に基づく基本計画」の指標の調査について

た おやまいいいん ならざきいいん じぜん ていしゆつ いけんいちらん はいふ
※その他、尾山委員・奈良崎委員から事前に提出された意見一覧を配付

【事務局による進行】

- ・黒岩知事挨拶
- ・事務連絡

【内藤部会長による進行】

(内藤部会長)

内藤でございます。本日は、皆様どうぞよろしくお願いいたします。議事に入る前に、皆様が活発にご意見を表明できる有意義な会になるように、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、早速議事に入らせていただきます。本日は議題が2つ、報告が2つでございます。議題と報告の順番・時間の目安は、次第の通りでございます。

それでは、議題の2(1)、1つ目の議題でございます。団体の活動の社会への発信につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1に基づいて説明

(内藤部会長)

ありがとうございました。今のような内容で、障害者施策審議会に報告するとのことでした。

事務局から、2の現在の団体活動で困っていることと、3の今後の団体活動で必要だということについて、追加したい意見を求められました。ご発言の際は、2に追加したい意見なのか、3に追加したい意見なのか、あるいは両方に共通する意見なのかを、発言の冒頭で明確におっしゃった上で、意見をいただければと思います。

各委員の方、意見を申し述べていただければありがたいです。

はい、猿渡委員よろしくお願いします

(猿渡委員)

神奈川県障害者自立生活支援センターの猿渡です。今回なんですけれども、先ほど事務局から言われた通り、普段なかなか発言できなかったりする方を優先して、より多くの課題を議論していただきたいと思います。

あと一つ、横の繋がりについて、障がい者同士の繋がりが、縦割りになっています。そこは行政の縦割りとも同じなので、行政も、もうちょっと横に繋がって、みんなで福祉団体の応援をやっていただきたいと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

たかのいいん ねが
高野委員、よろしくお願いいたします。

たかのいいん
(高野委員)

たかはじめ ばん いけんの
高野元です。2番について、意見を述べます。

わたし かながわなんびょうれん だいひょう ば しゅつせき かわさき かい
私は神奈川県連の代表として、この場に出席していますが、川崎つながる会と
いう神経難病コミュニティも主催しています。その経験をご紹介します。

かわさき かい まいつき ていれいかい くわ とくどき あそ い くるまいす の
川崎つながる会は毎月の定例会に加えて、時々、みんなで遊びに行きます。車椅子に乗
った60歳前後の神経難病患者が数人いるので、普通は異様な集団に見えenと思います。
われわれ かつどう おお とくちょう かん がかくせい さんか おお
我々の活動は、1つ大きな特徴があって、看護学生の参加が多いんです。ALSをはじ
めとする神経難病は世間的にはお手上げと見られることが多いですが、学生は知らない
ことから、偏見なく、我々との時間を一緒に楽しんでくれます。これが我々患者の気持ち
を明るくしてくれますし、学業に影響しない範囲で作業を分担してくれます。

かれ さんか いっしょういっせき わたし すうねんかん かんご
もちろん彼らの参加は一朝一夕でできたものではなくて、私が数年間、いくつか看護
学校での講義を続けてきたことで、少しずつ学生の参加が増えてきたのです。私が講義
をしているある大学は、壁一面にアルバイトやボランティアの募集チラシが貼ってあり
ました。医療系福祉系の大学や専門学校にもコンタクト先を広げてはいかがでしょうか。
けん あと お おも
県にもそのような活動を後押ししてもらえればと思います。

しょう しゃむ ぼしゅう きょうりよくてき がっこう み しょう
障がい者向けのボランティア募集に協力的な学校を見つけてもらうだけでも、障
がい者団体としては助かると思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。関委員

せきいいん
(関委員)

せき ねが ばん
関です。よろしくお願いいたします。3番についてです。

よこ つな に だんたいどうし つな きかい よ おも
横の繋がり似てるんですけど、団体同士が繋がる機会があると良いと思っています。
よいこととか困っていることとかも、意見交換しあえるのがあるとみんな助かるかな、
おも と思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

しもじょういいん ねが
下条委員、よろしくお願いいたします。

しもじょういいん
(下条委員)

しもじょう ばん
ピアサポーターの下条です。2番のほうです。

活動場所の問題がありまして、私たちが活動しているところは電車の駅のないところなので参加者が増えないという問題があります。駅の近くの施設を利用したいんですが、自治体がそもそも違うため、市民でないと利用できない制約があります。そのため一般のフリースペース等を、時間借りをして使用するような状況になっておりますが、会場費がものすごく高くなってしまっていて困っています。

それで、今年は社協の助成金を受けることができたんですけども、この場合、私たちが申請をした社協がある自治体の住民の人が半分以上いないと、この助成金を使てはいけなような制約になってしまっていて、活動範囲が狭まってしまっているという問題が発生しています。こういうところを、もし制度上で変えることができればもうちょっと活動範囲が広がるかなというふうに思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。小山委員、よろしく願いいたします。

こやまいいん
(小山委員)

2番ですかね。

だんだんみんな歳を取って、だんだん、今まで働いた仕事から、今度はA型とかB型とか、そういうちょっとお金が少ないところに行って。親が亡くなって、今度兄弟になって、それで兄弟に許可を取らないとっていう話になっている。あとは体のこと。普通に体調が良ければいいんだけど、だんだん悪くなってきて。

だから、ちょっと仕事の訓練をしてくれるような、そういうところが近くにあったらいいかな。例えばパソコンとか、職業訓練が近くにあったり、あと調理師免許とか、そういう感じで、長く仕事が続けられるような資格が取ればよいと思う。

まず収入がなければ、活動ができない。だんだん生活に困ってきちゃって。活動はお金次第だねっていう話になっちゃう。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

それでしたら、奈良崎委員から先に意見を提出していただいておりますから、それも含めて、もしございましたら、よろしく願いいたします。

ならざきいん
(奈良崎委員)

ありがとうございます。奈良崎です。すいません。私は障がい者の当事者活動支援についての意見なんですけど、それでもいいですか。2番と3番には、あまり意見はないんですけども大丈夫でしょうか。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。よろしゅうございます。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

まず、私が今回意見を出させてもらったのが、当事者の方の勉強会を運営するって、県からお金をもらえることは、すごくいいと思うんですけど、実際こうお金をもらいますって言ったときに、今回、1回、講師の方に3万8000円発生するところ会場費は1万5400円もらうとか、それについてのコメントを出したくて。

まず、こういうお金が出ますよって言う前に、当事者部会があるのに、なんでそこで議論してないんだろってというのは私はちょっと嫌だなと思いました。というのは皆さん当事者部会でこういうお金が出ますって急に言われても、自分たちが何の活動で何をしたいのかっていう実際その辺もモニタリングも何もなくて、こんなもん出されても、「え〜・・・」って思うところもあるんです。

というのは私がやっているにじいろでGO!は、毎回毎回学習会をやるために講師の謝金は欲しいけど、1回3万8000円？悪いけど、何回も呼びたいときがあるんだよな。今年はちなみに3回呼びたいけど、3回呼ぶのに、1人は3万8000円、1人は1000円、1人は500円とかになっちゃうよねって議論になりそうだねって先週、話をしています。

やっぱりそこは当事者部会で、こんな活動でこういうものに使いたいですって意見交換をやってほしい、絶対、神奈川県はやってほしいなっていうのがお願いです。

それともう1点。最終的には講師だけじゃないものにも使えるようにして欲しいなあって。

例えば事前に私たちは紹介するために、資料のパンフレットを作ったり、そういう資料って、今日もそうなんですけど、レジュメの資料の印刷って結構半端じゃないんです。

例えばうちの仲間とよくやるのはカラー印刷で、イラストを絵を描くときって、カラーコピーって高いですよ。そういうのも議論になっちゃうので、その資料代とか。あとできたら私は毎回おやつが欲しいので、おやつ代とかも含めて考えて欲しいなと思ってます。

それともう1つ、会場費は、1つのフロア、こんなに大きい部屋だったら多分1万5000円かもしれないけど、できたら、例えば何ヶ所使って1万5000円ってしてくれるといいのかなって。例えば大きいサイズちっちゃい部屋も含めて、何個までってして欲しいなっていうのをお願いしたいです。以上です。ありがとうございました。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。はい。高橋委員、よろしくお願いいたします。

たかはしいいん
(高橋委員)

ゆりの会の高橋和代です。盲ろう当事者として盲ろうという定義がないため、神奈川県盲ろう者ゆりの会としては小さな団体なんですけれども、会員は以前と比べやはり減ってきている状況になっています。

例えば、何か講演をお願いするときに、講師お1人だけではなく、そこに通訳・介助員もついていきますので、そちらに費用も生じます。盲ろう者が講演をする場合に、謝金は、やはり通訳者にも出さなければならなくなります。盲ろう者1人に対して2人ずつ通訳・介助員がつくようになっています。広い部屋もなかなか探せません。ネットで予約しても、やはり混んでいて取れない場合があります。また別の部屋を借りる場合に、その部屋代も高くなってしまいます。ですので、そういう状況を改善していただきたいなと思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。他に。はい、猿渡委員。

さるわたりいん
(猿渡委員)

はい、猿渡です。今、神奈川県で、ともいきボランティアというのをやっております。これは共生推進本部室がキルクとか、いろんな方に委託して、ともいきボランティアをやっていますが、そういうところにですね、障がい当事者の参画、当事者もボランティアできるということをもう少し知って欲しいかなということと、やっぱり公民館とかの有料化っていう部分と指定管理化っていうのがあります。

県庁の出先機関でもいいので、例えばそういうところを貸していただいたりできればいいのかなっていうのと、年間でいくらってところはやっぱり奈良崎さんたちと同じなので、講師とか通訳とかいろいろな人がいるんで、そこに対して例えば上限いくらで、年間活動大体10回とかね。

サンフラワーでも、おやつ代にしても講師代にしても皆さんやっぱり大変、どこでも大変なので、そういうところのどういうふうなところに経費がかかってるかっていうのを、見ていただいてですね、適正な値段というのをを出していただければもっとありがたい。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。はい。下条委員、よろしくお願いします。

しもじょういじん
(下条委員)

下条です。今度は3番についてなんですけれども、団体活動に必要だと思うことという
ことで、まず、県の方にはアンケートやヒアリング等をするためのピアサポ
ーター団体や事業、福祉事業所などと連携をしていただきたいと思います。

NPO法人だったり各種の福祉事業所だとか、ボランティアグループ当事者会か
家族会、あとは福祉系の団体とか、圏域ごとにピアサポーターの事業所があるので、そ
ちの方との連携をしていただいて、イベントなんかのときに、その関係のある団体さん
にメーリングリストなんかを作っていて案内を出していただいた方が、直接団体
さんの活動の幅も広がるかと思います。

あと、これを活用して、相談したくてもそもそも連絡先がどこなのかわからないとい
う問題もありますので、その団体の情報が掲載された名簿のようなものを作ってい
くとか、そういう連絡先がわかるような状況を公開していただけた方が、活動が増
えるかなと思います。あと先ほど関さん言ってましたが、団体の運営側が、自分たちの活
動の中での悩み事などを話し合って相談したり、自分たちの活動によってこういうのをや
っていますよっていう経験の話もできるような場所を作ったほうがいいのではないかと
思いました。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。富田委員、よろしくお願いします。

とみたいいん
(富田委員)

富田ですけど、2番なんですけど、現在の活動に困っていることがちょっとあるん
です。

ブルースカイグループで勉強会を開こうと思って、勉強会って言うとなかなか人
が集まらないんですよ。それで今、自分たちは、どうやったらかみ砕いてわかりやす
くできるかということを今考えてます。今年度はねそういうそういう方向で僕は行
こうと思
っています。はい。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。はい、小山委員よろしくお願いします。

こやまいいん
(小山委員)

私は3番で、障がい者の理解っていう点で、これから小学校・中学校とかに行
って、こういった障がいだということを伝えたい。

また、働^{はたら}き始めるとどうしても、おばさんや学歴^{がくれき}の良い人^よたちは得^え体の知^しれないもの
っていう扱^{あつか}いで。たぶんそのおばさん達^{たち}とかは、あんまりここまで福祉^{ふくし}に関わ^{かか}ってなく
て、その場^ばで、私^{わたし}たちこ^{だんたい}う^{けんしゅうかい}いう団体やっ^{けんしゅうかい}てますって^{けんしゅうかい}いう、そ^{けんしゅうかい}う研^{けんしゅうかい}修^{けんしゅうかい}会^{けんしゅうかい}みたいなのを
やっ^ほて欲しい^ほんですよ^ほね。

要^{よう}は障^{しょう}がい^{りかい}の理^{けんしゅうかい}解^{けんしゅうかい}みたい^{けんしゅうかい}な研^{けんしゅうかい}修^{けんしゅうかい}会^{けんしゅうかい}をやっ^{けんしゅうかい}てほ^{けんしゅうかい}しい^{けんしゅうかい}なと思^{おも}います。私^{わたし}たちはこ^{けんしゅうかい}う
団^{だんたい}体^{だんたい}で、こ^{けんしゅうかい}う^{けんしゅうかい}う^{けんしゅうかい}ふ^{けんしゅうかい}う^{けんしゅうかい}に小^{しょうがっこう}学^{しょうがっこう}校^{しょうがっこう}と^{ちゅうがっこう}中^{ちゅうがっこう}学^{ちゅうがっこう}校^{ちゅうがっこう}と^{まわ}か回^{まわ}った^{まわ}り、あ^{しょう}と^{しょう}ね、障^{しょう}がい^{しょう}者^{しょう}に^{しょう}対^{しょう}して
ち^{ちが}よ^{ちが}つと違^{ちが}う^{ちが}よ^{ちが}つて^{ちが}いう^{ちが}人^{ちが}達^{ちが}を、集^{あつ}めて^{あつ}もら^{あつ}って^{あつ}お^{あつ}ば^{あつ}さん^{あつ}と^{あつ}か^{あつ}特^{とく}に^{とく}そ^{とく}う^{とく}な^{とく}ん^{とく}で、何^{なん}か^{なん}ね、
嫌^{いや}だ^{いや}つて^{いや}言^いつて^いね、障^{しょう}がい^{しょう}者^{しょう}と^{しょう}一^{いっしよ}緒^{いっしよ}に^{いっしよ}働^{はたら}く^{はたら}の、た^{はたら}だ^{はたら}そ^{はたら}れ^{はたら}が^{はたら}原^{げんいん}因^{げんいん}で^{げんいん}辞^やめ^やる^やつて^やい^やう^やケ^やー
ス^やが^やあ^やる^やん^やで、小^{しょうがっこう}学^{しょうがっこう}校^{しょうがっこう}も^{しょうがっこう}や^{しょうがっこう}っ^{しょうがっこう}ぱ^{しょうがっこう}り^{しょうがっこう}子^こど^こも^この^こう^こち^こら^こら^こ障^{しょう}がい^{しょう}者^{しょう}の^{しょう}理^{しょう}解^{しょう}促^{しょう}進^{しょう}を^{しょう}こ^{しょう}れ^{しょう}か^{しょう}ら^{しょう}し
て^{おも}い^{おも}き^{おも}たい^{おも}な^{おも}つて^{おも}思^{おも}い^{おも}ま^{おも}す。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございました。では富田委員^{とみたいいん}、どうぞ。

とみたいいん
(富田委員)

3番^{ばん}なん^{ばん}ですけれども、今^{こん}後^ごの団^{だんたい}体^{だんたい}活^{かつどう}動^{かつどう}に^{ひつよう}必^{おも}要^{おも}だ^{おも}と思^{おも}う^{おも}こ^{おも}と^{おも}なん^{おも}です^{おも}け^{おも}ど、そ^{おも}れ^{おも}実^{じつ}を^{じつ}
言^いいま^いす^いと^い僕^{ぼく}は^{ぼく}去^{きょねん}年^{きょねん}の^{きょねん}1^が月^{がつ}か^がら、高^{こうれい}齢^{かた}の^{しょう}方^{かた}と^{いっしよ}障^{しょう}がい^{いっしよ}の^{かつどう}方^{かつどう}と^{ぼしよ}一^{ぼしよ}緒^{ぼしよ}に^{ぼしよ}活^{ぼしよ}動^{ぼしよ}で^{ぼしよ}き^{ぼしよ}る^{ぼしよ}場^{ぼしよ}所^{ぼしよ}を^{ぼしよ}や^{ぼしよ}っ
て^{ぼしよ}いま^{ぼしよ}す。

例^{たと}え^{たと}ば、歌^{うた}を^{うた}歌^{うた}つ^{うた}たり、体^{たい}操^{そう}し^{たい}たり、カ^{ひつよう}ラ^{ひつよう}オ^{ひつよう}ケ^{ひつよう}を^{ひつよう}や^{ひつよう}つ^{ひつよう}たり^{ひつよう}し^{ひつよう}て^{ひつよう}いま^{ひつよう}す。そ^{ひつよう}れ^{ひつよう}で、必^{ひつよう}要^{ひつよう}だ^{ひつよう}
と^{おも}思^{おも}う^{おも}こ^{おも}と^{おも}は^{おも}実^{じつ}を^い言^いいま^いす^いと、僕^{ぼく}が^いそ^いこ^いに^い行^いつ^いて^いる^いと^いきに、中^{ちゅうがっこう}学^{せいと}校^{せいと}の^{せいと}生^{せいと}徒^{せいと}が^{せいと}ボ^{せいと}ラ^{せいと}ン^{せいと}ティ^{せいと}
ア^きで^き来^きて^きく^きれ^きる^きん^きです^きよ。2^{ねんせい}年^{ねんせい}生^{ねんせい}と^{ねんせい}か^{ねんせい}3^{ねんせい}年^{ねんせい}生^{ねんせい}と^{ねんせい}か。

で、一^{いっしよ}緒^{こうれい}に^{かた}高^{はな}齢^{はな}の^{じぶん}方^{はな}と^{はな}お^{はな}話^{はな}し^{はな}し^{はな}た^{はな}り、自^{おも}分^{しょう}た^{しょう}ち^{しょう}と^{しょう}も^{しょう}お^{しょう}話^{しょう}し^{しょう}し^{しょう}て^{しょう}いま^{しょう}す。障^{しょう}がい^{しょう}が^{しょう}あ^{しょう}つ^{しょう}て^{しょう}も^{しょう}全^{ぜん}然^{ぜん}そ^{ぜん}ん^{ぜん}な^き
気^きに^きし^きて^きま^きせ^きん。中^{ちゅうがくせい}学^{ほう}生^{ぼく}の^{かんしや}方^{かんしや}が。僕^{ぼく}は、す^{いじよう}ご^{いじよう}く^{いじよう}そ^{いじよう}れ^{いじよう}を^{いじよう}感^{いじよう}謝^{いじよう}し^{いじよう}て^{いじよう}いま^{いじよう}す。はい。以^{いじよう}上^{いじよう}で^{いじよう}す。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。では多賀谷委員^{たがやいいん}よろしくお^{ねが}願^{ねが}い^{ねが}し^{ねが}ま^{ねが}す。

たがやいいん
(多賀谷委員)

神^{かな}奈^な川^が県^{けん}聴^{ちやうかく}覚^{しやうがい}障^{しやき}害^{しやうかい}者^{しやき}協^{しやき}会^{しやき}、多^た賀^が谷^やと^{もう}申^{もう}し^{もう}ま^{もう}す。

3番^{ばんめ}目^めにつ^{いけん}いて^{もう}意^あ見^{おも}を^{おも}申^{おも}し^{おも}上^{おも}げ^{おも}たい^{おも}と思^{おも}い^{おも}ま^{おも}す。

手^{しゅ}話^{わかんけい}関^{しどう}係^いなん^いです^いが、そ^いれ^いを^い指^{しょうがくせい}導^{たい}し^{おこな}て^{おこな}る^{おこな}と^{おこな}き、今^{しょうがくせい}ま^{たい}で^{おこな}ほ^{おこな}と^{おこな}ん^{おこな}ど、小^{しょうがくせい}学^{たい}生^{おこな}に^{おこな}対^{おこな}して^{おこな}行^{おこな}う^{おこな}
こ^おと^おが^お多^{ちゅうがくせい}い^{こうこうせい}です^{きやうみ}。中^も学^も生^も・高^も校^も生^もに^もも^も興^も味^もを^も持^もつ^もて^もい^もた^もだ^もき^もたい^もと思^{おも}つ^{おも}て^{おも}いま^{おも}す。
小^{しょうちゅうこう}中^{こうりゅう}高^{こうりゅう}と、交^{ばしよ}流^つみ^ほたい^ほな^ほもの、そ^おう^おい^おつ^おた^お場^お所^おを^お作^おつ^おて^お欲^おしい^おな^おつ^おて^おい^おう^おふ^おう^おに^お思^{おも}つ^{おも}
て^{おも}いま^{おも}す。

それと2番目として、聴覚障がい者とコミュニケーションが取れないために、パートとか、アルバイトをしたくても断られてしまいます。そういったことがほとんど。本当に多いんです。とても範囲が狭くて仕事をしたい時でも、パートとかアルバイトっていうものができないので、それをもっと範囲を広めて、そういったことができるようになっていうふうにして欲しいという声も他の方から聞いておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございました。猿渡委員。

さるわたりいん
(猿渡委員)

ちょっと手短かに言わせていただきます。

高齢化は皆さん進んでますが、やっぱり小さい頃からですね、インクルーシブ教育、障がいのある人もない人もともに生きるということを、県も推進校って形でやってますけれども、もっと範囲を広げることと、あとですね、普通校の中に支援級があっても支援学校と同じなんですよ。

なので、支援が必要なお子さんでも、普通の学級にいて、必要なときだけ支援員が入るといって形をもっと取っていただきたいということです。交流ではなく、常に社会的な配慮の必要な人、社会的に生活したり、いろんなことを学習したりすることが難しい人ですね、そういう人たちを、周りの友達に関われるように、支援員が近くにいるのではなく、友達同士の関係を小さい頃から、作っていただきたいと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。それでは、高橋委員、よろしく願いいたします。

たかはしいん
(高橋委員)

ゆりの会の高橋和代です。多賀谷さんがおっしゃった通り、小学校・中学校に盲ろう者が行って講演する機会は本当に少ないです。コミュニケーション方法について、小学校・中学校で、手話ができなくても、手に書いて伝えるとか、そういうことがわからないままなんです。

神奈川県には高等部が1つ、そこに行ってコミュニケーションができるところもあるんですが、やはり一般的な高校生は手話ができないので、盲ろう者がどんな人なのかわからないんです。

ですから、できれば盲ろう者を呼んでいただいて、いろんな場所で理解を深めたいとおもっていますのでお願いします。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。それでは、奈良崎委員よろしくお願いします。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

はい、奈良崎です。はい。3番についてお願い事があって、できたら、私たち当事者も皆さんもそうなんです、この先、若いリーダーを育てないといけないと思うんです。できたらそのリーダー研修みたいなのを神奈川県でやってもらえると嬉しいなと。というのは私、全日本育成会で今はもう育成会変わっちゃったんですが、そのとき私は若かったんです。

その時に、後輩たちとか先輩たちが自分たちがどんなリーダーを未来目指すとか、例えば、私なんかはロバート・マーティンさんとかの映画を見ながら、リーダーの研修を受けたりそういう研修をこの先、後輩たちにもつなげないといけないのかなあって思いました。ぜひ神奈川県でもやって欲しいなと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。小山委員どうぞ。

こやまいいん
(小山委員)

横須賀本人会の小山です。3番ですが、車椅子バスケットやボッチャなど、そのスポーツ大会って、地方でやってくれないのかな、なんてずっと言っているんですね。わざわざ横浜までいかないといけない。前日に行くんです。前日に泊まって大会に参加するという形で、宿泊費もかかるし、やっぱり車いすだと朝混んで、なかなか乗れないし、一泊して行く必要がある。仲間も水泳をやったりすると、大会か辞めるかどっち選んで言われることもあって、じゃあ水泳辞めますっていう人もいた。スポーツをするにしてもお金がかかるので、働くかやめるか。ダンス大会とかスポーツ大会とか、参加しやすいところでやってくれるといいなと思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。

さるわたりいいん
(猿渡委員)

小山さんの意見に関して、ちょっと知ってることあるんで。小山さんの件に関してなんですけど、もう私もボッチャの公式のボール持ってまして。昨年ですけど、内藤さんが開会式を行いましてですね、神奈川県障害者スポーツ大会今年も行われます。それ

は市町村のスポーツ課にあります。

それで、全国のところは昨年佐賀でありましたけれども、そういうのがですね市区町村の窓口、障害福祉課かスポーツ関係の窓口にしかないんですね。ボッチャとかに關しては、例えば、相模原だとけやき体育館とか、あるいは橋本で月に1回、火曜日にあったりとかしてます。各チームあるんですけれども、やっぱりその障がい者の度合いとかですねそれで全部分かれてるんです。

なのでそういう情報を、例えば、県の方からもうちょっとわかりやすくですね、各団体にお知らせをして、こういう人たちがいないかどうかっていうところでサポートして欲しいかなと思います。働くことについては、ちょっと別の件でお話させていただきたいと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

いろいろご意見いただきましてありがとうございました。この問題につきまして、よろしいでございましょうか。はい。事務局におきましては、ただいまいただきましたご意見を、障害者施策審議会へ報告する際の参考としていただければありがたいと思います。

続きまして、次第の2(2)、報告事項で、障がい者主体の活動を行う団体への支援について、事務局から説明をお願いいたします。

じむきょく
(事務局)

しりょう 2 に基づいて説明

じむきょく
(事務局)

事務局から補足でございます。先ほどお話の中で奈良崎さんからご意見いただいたのは、今ご説明したこの事業のことでよろしいですね。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

はい。

じむきょく
(事務局)

みな 皆さんそういうことですので、よろしく願います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

今、説明していただきました件につきまして、何か、委員の方から質問がございましたらどうぞ。それでは猿渡委員よろしく願います。

さるわたりいいん
(猿 渡 委員)

すいません。猿 渡 です。今、県の方で障がい者団体の把握っていうのが70と聞いています。政令市も含めてですね、大体どれぐらいなのかっていうのを把握していただいて、それで、使い道ってのはそれぞれだと思っんです。

もう今ですね結構美大とか、若い学生さん達が、メタバースとかもそうですけれども、絵を描いたりとかですね、それが得意な奈良崎さんの方もそうですけど、絵をかいて表現するのが、上手い方なんかも結構いらっしゃいます。あと就 労 B の、そういう印刷とかやっているとところとかもあったりすると思っんですね。

なので、そういう社会資源を使っただくと、例えば就 B に通ってる人が、団体に入っていれば、そういうところから広がっていく。当事者活動に入りたいけれどもやっぱり何をやってるかわからないってことが多いのと、グループホームに入ってる方がですね、在宅に土日に戻っってしまうっていうのは、私 たち当事者活動をやっている団体と繋がれば活動できますけど、やっぱり知らない。

家族の中でも地域との繋がりが少ないので、やっぱりね、こういうクラブがあるよ、こういう例えばピープルファーストの大会があるよとか、そういうふうな活動って知らないしわからないじゃないですか。

なのでそういう情報も含めてやっていくのと、例えばこの申請のホームページを作るときに、なるべくわかりやすく、どういうふうな活動をしたいのか、どんな活動を目指したいのかとか、どんなことを伝えたいですかみたいな、本人の立場に立った作り方っていうのを、していただければと思っいます。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。他に何か、委員の方から質問がございませんでしょうか。先ほど説明していただきましたことについて、よろしゅうございませうか。

それでは、前半で行いました件につきまして、知事、副知事からのコメントをいただきたいと思っいます。

【知事・副知事コメント】

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

どうも、ありがとうございます。ここで、前半のコメントいただきましたものから、ちょっと休憩にしたいと思っいますけれどもよろしゅうございませうでしょうか。それでしたら、15時5分に再開したいと思っいますので、約15分休憩とさせていただきます。再開は15時5分でございませう。よろしくお願ひいたします。

きゅうけい
《休憩》

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。皆さんよろしゅうございましょうか。それでは時間になりましたものですから、会議を再開したいと思います。次第の2(3)2つ目の議題でございます。障がい当事者の視点から、働くことを考えるにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

じむきょく
(事務局)

しりょう もと せつめい
(資料2に基づき説明)。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。事務局から、働くことのイメージにつきまして、ざつくばらんに話して欲しいとのことでございますが、各委員の皆さんから、ご発言がございましたらお願いいたします。はい。はい、関委員、よろしくお願いいたします。

せきいん
(関委員)

関です。よろしくお願いします。合理的配慮についてです。障がいに応じて、必要な配慮をしてもらうのは労働者の権利だと思っています。一般企業の障がい者枠では面接のときなどに合理的配慮のことを必ず聞かれるので自分の障がいの特性を包み隠さず話すことによって、自分も働きやすくなるし雇用主も配慮しやすくなると思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。では、猿渡委員。

ざるわたりいん
(猿渡委員)

はい。続けてなんですけども、関さんのお話もそうですが、僕も精神とか持ってます。例えばですね本当に精神障がいを持っているっていうだけで、身体も、僕は発達もありますけれども、そういう障がいを持っているとなると、どういう支援員が必要なのか、例えば知的の方だったらジョブコーチとかがいますけど、例えばその人たちも、期間が決められたり、あと盲ろうの方とかいろんなね障がいを持ってる方がいますけど、その人そのニーズに応じた、合理的配慮とか社会的な調整ということがやっぱりなかなかしづらいんですよ。

それを、やっぱりその、当事者と、もうちょっとその企業側が向き合うというか、合同

面接^{めんせつ}だけでなく、やっぱり今^{いま}はね特別^{とくべつ}支援^{しえん}学校^{がっこう}とがやっていますけど、そういうのだけではなくてですね例^{たと}えば、神奈川^{かながわ}県^{けん}だったら県^{けん}庁^{しやう}が、出先^{でさき}機^き関^{かん}も含めて、県^{けん}の職^{しよく}員^{いん}が、県^{けん}の当^{とう}事^じ者^{しゃ}職^{しよく}員^{いん}が、難^{なん}病^{びやう}も含めて、権^{けん}利^り条^{てう}約^{やく}に入^{はい}っている障^{しょう}がい^いと言われてる、困^{こん}難^{なん}を抱^{かか}えてる方^{かた}たちがテレワ^{はたら}ーク^{かた}など、どん^{おも}な働^{はたら}き方^{かた}をするか^かつて^いうの^いを、当^{とう}事^じ者^{しゃ}部^ぶ会^{かい}で見^みる^{おも}つて^いうの^いも1つ^{おも}だと思^{おも}います。

あと、やっぱりその働^{はたら}く^{おも}つて^いうのは例^{たと}えば自治^じ会^{かい}活^{かつ}動^{どう}だ^{おも}つたり、ボッ^おッ^おチャ^お活^{かつ}動^{どう}だ^{おも}つたり、お金^{かね}がなくてもやれることもあ^おる。僕^{ぼく}も、障^{しょう}がい^い者^{しゃ}が地^ち域^{いき}で生^いきる会^{かい}つて^いうの^いをやっています。な^おので、そ^おうい^おう社^{しゃ}会^{かい}参^{さん}加^かに^{かん}関^{かん}して^{はたら}も働^{はたら}く^{おも}つて^いうそ^おの^お金^{かね}の部^ぶ分^{ぶん}つて^いうと^おこ^おろ^おで、い^かろ^おんな^おや^おり^お方^{かた}があ^おる^おと^おも^おう^おう^おに^お皆^{みな}さん^ちが^い地^ち域^{いき}の中^{なか}に^かか^かわ^わる^るこ^こが^お働^{はたら}く^{おも}つて^いこ^おとな^おの^おでは^いな^いい^いか^いな^いと思^{おも}つて^いお^いり^いま^いす。以^い上^{じやう}で^{じやう}す。

ない^{ない}と^とう^うぶ^ぶかい^{かい}ちやう^{ちやう} (内^{ない}藤^{とう}部^ぶ会^{かい}長^{ちやう})

オン^{おん}ラ^らイン^{いん}で、榛^{はん}澤^{ざい}委^い員^{いん}の方^{かた}から手^てが^あ挙^あが^あつて^あお^あり^あま^あす^あも^あの^あで^あす^あか^あら、榛^{はん}澤^{ざい}委^い員^{いん}ご^い意^い見^{けん}お^おし^しや^しつて^しく^くだ^ださい。

はん^{はん}ざ^ざい^いいん^{いん} (榛^{はん}澤^{ざい}委^い員^{いん})

ま^まず^ずち^ちよ^よつと^と参^{さん}加^かが^お遅^おれて^おし^しま^まつて^お申^{もう}し^{わけ}訳^{わけ}あ^あり^あま^あせん。

今^{いま}は、働^{はたら}く^おこ^おと^とに^いつて^いな^なん^なで^です^すけ^けども、精^{せい}神^{しん}障^{しょう}がい^いを^もお^か持^かち^ちの^い方^{かた}で、一^い般^{ぱん}就^{じう}労^{ろう}し^したい^いけ^けど^どな^なかな^なか^かそ^そこ^こま^まで^で結^{むす}び^いつ^{いた}か^かない、な^はかな^はか^かそ^そう^う至^{いた}ら^はない。働^{はたら}いても^けつ^けき^きよ^よく^くな^なが^がつ^つづ^づき^きし^しない^いつて^い方^{かた}が^お多^おくて、も^はし^は働^{はたら}ける、精^{せい}神^{しん}障^{しょう}がい^い者^{しゃ}で^はた^はら^はる^るこ^この^い意^い欲^{よく}の^かあ^ある^る方^{かた}が、働^{はたら}ける^はよ^よう^うに^いな^なる^るこ^こは^おす^すご^ごく^く僕^{ぼく}は^だい^いじ^じだ^だと^おも^おつて^て、僕^{ぼく}も^さそ^それ^れに^い、作^さ業^{ぎやう}所^{じょ}に^りよ^うし^しや^やと^とし^して^て通^かつて^いて、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ^ふと^はた^たら^ら働^{はたら}ける^じよ^うに^じつ^じか^{かん}ん^んと^とし^して^て、今^{いま}、一^い応^{いち}ス^しタ^たフ

ていくみたいなシステムにできないかどうか、それができなくて非常に、就労にしたいけどいきなり、就労だけになっちゃうというのでそこを、何とかできないかってことで、1つ考えてます。はい。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。はい。では小山委員、よろしくお願いいたします。

こやまいいん
(小山委員)

横須賀本人会の小山です。結局、現場と事務所って分かれていて事務所側が障がい者を雇っています。罰金を払いたくないとか、いい会社だっていう風にみられたいとかで雇いたっていうのがあって。

でも現場では、特におばさんたちは障がい者と一緒に働きたくないよねって言って。露骨に聞きますね。それで、なんで障がい者がここで一般と一緒に働くのか。障がい者は障がい者のところで働いたほうがいいんじゃないって言われたりとか。

それで、あと、学歴のある若い人たちは、仕事を教えたらどんどん出世していつちゃう。私たち、平社員で、時給もずっと安いままなんですよね。例えば、720円で、一般が850円だったりしてそういう時期がありました。理由としては、それだけ能力が劣るからっていうことがあってね、障がい者、学歴があろうがなかろうが能力が劣るんだから、それが当たり前だろっていうやり方をされました。

途中から、これはおかしいんじゃないって思っていや、別にでしたね。だからなかなか一般就労って難しく、障がいを理解してもらわないと働けないってのが現実ですね。だからみんなが作業所行ったりB型・A型行くんだけど、A型は結局今、精神の人ばかりで、3障がいていっておきながら精神専門のところになってますね。だから私はいま、A型に行っていますが、精神専門っていう風になってますね。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございました。高橋委員よろしくお願いいたします。

たかはしいいん
(高橋委員)

ゆりの会の高橋です。全盲ろうです。今まで、弱視ろうだったんですけれども、企業で働こうと思ったんですけれども、ほとんど見えないということで仕事に就けないことが多かったんです。

横浜に盲ろう者が働ける作業所がありますが、給料は安いということなんです。一般と比較するとかなり低い賃金で働いています。同じレベルにしていだきたいなと

おも
思っています。

もう しゃ つうやく かいじょいん いっしょ で ほうほう
盲ろう者も通訳・介助員と一緒に出かけしていきます。コミュニケーション方法はそれ
ちが かわ じょうほう
ぞれ違いますけれども、周りの情報であったりとか、いろいろなコミュニケーション
ほうほう つか じょうほう はあく ひとり がいしゅつ かのう
方法を使って、情報を把握しています。1人では外出ができませんので、可能ならば、
いえ ないしょくとう たと はし ふくろ つ など ないしょくとう しごと
家の内職等、例えば箸を袋に詰める等の内職等の仕事ができるような、そんなシステ
ムができたらいいなというふうに考えています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。たかのいいん ねが
高野委員、よろしくお願いいたします。

たかのいいん
(高野委員)

たかの もんだい かんが つづ われわれじゅうどしんたいしょう しゃ
高野です。問題については、これまでも考え続けてきました。我々重度身体障がい者
は、ヘルパーや家族に介護してもらわないとにちじょうせいかつ おく
は給料が出るような就労の時間には使えないと制度上で決められています。つまり
きゅうりょう で しゅうろう じかん つか せいじょう き
我々は制度上、働いて給料をもらうことが極めて制限されています。

とはいえ、なに しゃかい かか も わたし しゃかいさんか ことば つか
とはいえ、何か社会と関わりを持ちたいもので、私は、社会参加という言葉をよく使
いますが、そこにはきゅうりょう はっせい かんけい はたら
給料が発生するとかしないかはあまり関係ありません。働くとは
しゃかいかんけい も つづ おも
社会関係を持ち続けることではないかと思います。

もちろん、きゅうりょう まちが ほか しゃかい ひょうか
もちろん、給料があったほうがよいのは間違いないですが、その他に、社会から評価
されているということがたいせつ けんじょうしゃ ひかく ひと じぶん がんば
大切です。健全者との比較ではなく、その人が自分として頑張
っていることをときどき ほ けん し く
褒めて欲しいんです。それが県の仕組みになっていればなおよいと
おも たと はっぴょう きかい こうにん ひょうしょうじょう よ おも
思います。例えば、発表の機会があるとか、公認の表彰状とかでも、良いかと思いま
す。いじょう
す。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。とみたいいん ねが
富田委員よろしくお願いいたします。

とみたいいん
(富田委員)

とみた はたら じぶん はたら とうじ ごうりてきはいりょ
富田です。働くってということなんですけど、自分の働いている当時は、合理的配慮と
か、そういうのありませんでした。今からかなり昔だったので、もう半世紀ぐらい前だ
ったんで、まえ ばんこくはくらんかい かいしゃ き
前の万国博覧会がやっていたときに会社を決めたんですから、そういうこと
いっさい きゅうりょう いっしょ びょうどう きび
一切なくて、給料も一緒、平等にもらえてました。だからやっぱりすごく厳しかった
ですね。

はたら たの はたら
でも働くってことはもう1つありますよね。楽しく働くってことね。

みな たの はたら かんが しごと
どうしたら皆が楽しく働けるかってことを考えてました。仕事じゃないところです

けどね。そしたら皆さんわかってくれました。こういうふうにやったらいいのかなと思
って。興味のあることを話すんですよ。彼らの興味のあること。

例えば誰が好きとか、よくそうやって話すと結構ねモチベーションが上がって、みんな
頑張って仕事をやるんですよ。だから、働くだけではちょっと難しいと思うので、
何か面白くね、発想したほうがいいと思うんですよ。僕はそういうふうにやってみました。
向こうも言っています。「富田さん、今日はあの人出てる？」とか言ってきますもん。僕
が行ったときは。今はそこにはいませんけどね。

はい。以上です。だから、面白く言った方がいいと思うんですよ。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

どうもありがとうございました。はい、多賀谷委員。

たがやいいん
(多賀谷委員)

多賀谷です。よろしくお願いいたします。聞こえない者として、仕事が必要だと思いま
す。仕事を続けるイメージとしては私としては、聞こえる人達とのおつき合い、交流な
ど、コミュニケーションができないところを広げるといことも大事だと思います。

でも私だけではなくて、他のろう者の考え方では、見方や考え方それぞれ違います。
まちまちになっております。私の主人の場合は、仕事をしています。仕事をしながら、
聞こえる人たちとのコミュニケーションに一番難しい面もあるというふうに言ってお
ります。少しずつ会話に慣れていって、楽しく会話ができるようになる。そして情報を
もらうことができる。会社に通勤するのはそういうところも一番大切だと言っています。
仕事上のつき合いが大切だと思うというふうに言っております。

昔は、やはり差別を排除するっていうことがなかったですね。

なので、差別を排除していかなければならないですが、それについても知ってる会社
も知らない会社もあると思います。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。次に、宇都木委員よろしくお願いいたします。

うつぎいいん
(宇都木委員)

私は、先天盲なんですけれども、盲学校を卒業してからずっと働いてきました。こ
れは、いわゆるお給料を、収入を得るために働いてきたわけなんですけれども、マッサ
ージの仕事、鍼灸の仕事をしたり、それから、今は、県の出先機関で電話交換手として
働いています。

ずっと今まで働いてきた中で、もちろん結婚し子育てをしながら、働いてきたんで

すけれどもあんまりこう、収入を得るために働いて、それ以外のことっていうのはあまり考えてなかったんですけど、今回この働くことに、この議題をいただいたときに、いろいろ考えてみて、自分の中で、ずっと働いてきたことで、自分の生きがいになったり、働いてきたことが生きがいだったり、それから社会と繋がっていられることだったり、それから、自分の団体でのいろんな働きの中で、いろんな面で自信に繋がっていたり、生きがいだったりっていうことにすごく今までの働きが繋がってきているかなっていうふうに思っています。

1つだけ、視覚障がい者っていうのは、なかなか、今、パソコンとかがすごく発達してきて、事務作業とかっていうのも、皆さんそういうので就労されてる方もいるんですけども、私がやって今仕事している電話交換手っていうものが、県の方では、少しずつ減らしていこうっていう動きになっているような気がします。

ちょっとこの場合、かけ離れてしまうんですけど、私たち障がい者が継続して働いていけるこの場を奪わないで欲しいというふうに思っています。これからの若い子たちにもこうやって、どんどん働いていって欲しいと思っているので、この場を借りてちょっとお願ひも含めて、お伝えしてみました。

ないとうぶかいちょう (内藤部会長)

ありがとうございます。はい。下条委員、よろしくお願いいたします。

しもじょういいん (下条委員)

下条です。私は、働かないといけないと思っていたんです。

一番最初、うつで病院に通っていて、今は発達障がいの診断を受けていますけれどもその前までは、精神障がいっていうことで、色々支援を受けたりしていたんですが、やはり働かないといけないと思っていたので、福祉的就労などをしていたことがあります。

それで、一般的な話ですが、現状、グループホーム等に入所している方の多くは、年金と生活保護のお金を合わせた金額で何とか生活しているような状況です。

私の場合は親の持家と親族がいるので生活保護の申請がそもそもできない、生活保護がつかえない。そうすると、生活保護がない状況では働いて自分でお金を稼がないと、生活が成り立たなくなってしまうんです。

親が今はいるので、親の年金もあり、自分の生活はできているんですが、実際親が高齢ですので、いなくなった場合、自分だけで生活を成り立たせようとする絶対働かないきやいけない。そういう面が出てきます。

でも実際のところ私は、決まった時間に仕事をするっていうのがそもそも苦手で向いていない。そういう仕事が向いていないっていうふうに、A型事業所で仕事をしてみて

わかりまして体調^{たいちよう}の変化^{へんか}などが、その日^ひその日^ひによって読みづら^よいってというのがあり、1日を通して体調^{たいちよう}が一定に保てないってところがあります。それに外的要因^{がいてきよういん}でこの不調^{ふちょう}になることが多いんですが、これを理解^{りかい}してもらえるところでないと働^{はたら}けないっていうのもあり、そもそも働^{はたら}かなきゃいけないのかってところをちょっと考^{かんが}えました。以上^{いじょう}です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。次^{つぎ}、奈良崎委員^{ならぎきいん}、よろしくお願いします。

ならぎきいん
(奈良崎委員)

はい。奈良崎^{ならぎき}です。あくまで意見^{いけん}なんですが、素直^{すなお}に、障害年金^{しょうがいねんきん}がすごい少^{すく}ないと私^{わたし}は思^{おも}います。それで、私自身^{わたしじしん}でよく考^{かんが}えると、海外^{かいがい}の仲間^{なかま}たちがすごい豊^{ゆた}かだなあと。私^{わたし}はさっきロバート・マーティンになるんだっていうのが私^{わたし}の夢^{ゆめ}になりました。最近^{さいきん}は。

それは何^{なん}でっていうんですが、彼^{かれ}たちは働^{はたら}くよりは、自分^{じぶん}たちは税金^{ぜいきん}を上げてもらって、障害年金^{しょうがいねんきん}を上げれば生活^{せいかつ}がハッピーになれるよっていうのが多いんです。でも日本^{にほん}はすごく税金^{ぜいきん}が高いです。多少^{たか}高いのに、私^{わたし}達^た障害年金^{たしょうたか}が少なすぎだろうと。

だから私^{わたし}たちは無理^{むり}してでも働^{はたら}かないといけないのかなっていうのが、知的^{ちてき}の仲間^{なかま}達^{たち}と議論^{ぎろん}してます。それとあと、私^{わたし}はもし、働^{はたら}かなくていいよ、明日^{あした}から障害年金^{しょうがいねんきん}いっぱいあげるから働^{はたら}かなくていい、素直^{すなお}に私^{わたし}はそういう生活^{せいかつ}ができるように、いつか日本^{にほん}にやってもらえるといいのかな。そしたら自由^{じゆう}に、権利^{けんり}を奪^{うば}われず、自分^{じぶん}たちの権利^{けんり}でできることがある。

例えば学校^{がっこう}に行く、勉強^{べんきょう}したい。例えば自分^{わたし}はこんな勉強^{べんきょう}したいとか、学生^{がくせい}になりたいっていうのは、私^{わたし}もずっと夢^{ゆめ}だったので、そういうことも考^{かんが}えて欲しいなっていうのを願^{ねが}いしたいんです。それでもう1点^{てん}、皆^{みな}さんの例えば働^{はたら}くっていうことに対して、多分^{たぶん}いろんな意見^{いけん}が出^でると思うんです。今日^{けふ}も多分^{たぶん}知事^{ちじ}は頭^{あたま}の中^{なか}整理^{せいり}ができないと思うんですが、ぜひ一人一人^{ひとりひとり}のインタビューを時間^{じかん}かけて話^{はなし}を聞^ききたいなと。それをぜひ願^{ねが}いしたいなと思^{おも}います。

それでもう1つ、私^{わたし}の中で一番^{いちばん}思^{おも}ったのが、障^{しょう}がい者^{しゃ}の人^{ひと}が、どうやれば楽^{らく}な働^{はたら}き方^{かた}が、今^{いま}私^{わたし}すごい楽しいなと思うのが、新^{あらた}しく東洋大学^{とうようだいがく}にこの前^{まえ}ちょっと私^{わたし}、研修^{けんしゅう}で行^いかせてもらって、その人^{ひと}に合^あった時間^{じかん}で働^{はたら}き方改革^{かたかいかく}をしたんですね。例えばその人^{ひと}が8時間^{じかん}が嫌^{いや}なんだったら、1時間^{じかん}来て毎日^{まいにち}1時間^{じかん}来て、その分^{ぶん}のお給^{きゅうりょう}料^{りょう}をあげましようとか、そういう改革^{かいかく}もできるんじゃないかなというふうには思^{おも}ってます。

それでもう1つ大事^{だいじ}な、2つ目^めに願^{ねが}いをしたいのが、私^{わたし}も今^{いま}おかげで、クビにはなっていないんですけど、毎回^{まいかい}私社員^{わたししゃいん}になりたくなくて、パート・アルバイトで繋^{つな}げて、今^{いま}

かいしゃ こうれいしゃ せつ なにじゅうねん の会社、高齢者施設で何十年にもなってるんですけどその時、保障がないんですね。

たとえば家族が病気になった、兄がインフルエンザになったときも、4日間会社休んだときに、給与が発生してないんですね。その保障をして欲しいですね、アルバイトの人たちにも。例えば保障っていうのが、例えばお給料が丸々でなくてもいい。半分でもいいので保障してもらおう。そうすればお金がかからなくて済むのかなど。そのためにはちゃんと私たちも診断書、家族の診断書をとる。家族手当もそう。お金が出るために私たちは、訴えないといけないのかなあと思ってます。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。はい。猿渡委員よろしく願いいたします。

ざるわたりいいん
(猿渡委員)

ざるわたり 猿渡です。まず1点、他の自治体で市民生活センターが主に関わって、埼玉とかです。ねいくつか、今、重度訪問介護があります。知的や身体の方とか一部の人たちに使えるようになっていきます。区分4以上ですけど。仕事上で重度訪問介護使えませんが、埼玉とかでは、重度訪問介護を使えるようにしています。僕が昔いた調布市でも、今、使えるように、検討してるところなんです。

今は、僕は橋本に住んでるんですけど、町田との境に住んでいます。例えばそういうふうな、重度訪問介護の中で、施設支援もそうですけど今回初めて施設支援入ってる人は、移動が使えないってところも使えるようにしますし、そういうことはあるんですけど、例えばそういう障がいの方の自分らしさを活かしながら、その人に合った、僕もそうですけど皆さん波がありまして、障がいによっていろいろあると思いますので、そういう中で、僕らが、施策審の方にも僕入っているんですけども、その施策審で今度調査をやるんですけど、その中に、当事者のこのメンバーにいっぱい入ってもらって、その中に新しいその、次に担えるような、当事者の方をですね、入れて、モニタリングのサポートみたいな形でですね、新しい方を育てるっていうのはどうかなと思います。

なので県の方で、時短とか会計年度とかありますけれども、その中で例えば重度訪問介護1日何時間使えるようにするって、移動ができれば、違う働き方ができる方もいると思いますし、テレワークできる方もいます。なのでそういうところでちょっと重度訪問介護ですね、考えていただけるとありがたいな、仕事上で使えるようにということで、以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。はい。小山委員よろしく願いします。

こやまいん
(小山委員)

働く場合には、面接っていうものがありまして、ハローワークで、知的っていうのをまず向こうに伝えてくれって言われるんですよね。それで、向こうで面接しました。そうすると、まず、障がいのことを詳しく聞くんですよね。「うちじゃ発作を起こしたらちょっと対応が難しいですね。」って言われたり。

合同面接会っていうところも、まずね聞かれるんです。こういった知的で、どういう病気ですか。発作があります、と言うと「うちじゃ発作が起きたら対応できないんですけど」って言われて。それで面接がだめになって。応募がたった1人だから大丈夫だよって行ってみたら、なんか障がいのことを詳しく聞くんですよね。やっぱり。だから、多分、合格だよ1人だからって言われて行ってみたら、不合格だったという。発作を起こしちゃうような人は無理ですって。あと働けなくなったときに、保障が欲しいですね。入院や怪我した時って保障が何もなくって、だからずっと次で働くまで何ヶ月もあったりするんで、そのときの保障が欲しいし、その時に親が働いてればいいんですけども、働いていないと本当に苦しいんですね。年金だけちょっと貰えるけど。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。次に、小西委員、よろしく願いいたします。すいません。

こにしいいん
(小西委員)

ピープルファーストの小西です。小山さんが言った通り、私も、ハローワーク行っただけなんです。そしたら、最初に話を受ける人に、いろんな資料集めてくれって言われました。そして、合同面接があつて、そこで8人受けて採用予定は1人って書いてある。そしたら面接ではニコニコしながら、お断りメールが来た。

それで、これはプライベートでいいですかね、僕も10代の時はほとんど仕事してなかったんで、1回目も会社のときは保険等がありました。学校から来て、保険の交渉してもらって。そのあと辞めちゃって、3年間遊んでみて。親父のお金もらって。そのあと別の会社に入って。そしてピープルファーストに入っているいろんなことをやりました。ちょっと長くなっちゃうんだけど、省略しましょう。そしたらいろんな人の顔が見えてきて。全国の顔が。俺、全国うろろうしてるんで。そしていろんな人、しゃべれない人、目が見えない人、耳が聞こえない人もいっぱいいます。そこの大会が、宣伝になりますけど、神奈川県大会、こういうピープルファーストの大会が、8年ぶりにあります。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

ありがとうございます。はい。ウェブの方で、榛澤委員が手を挙げておられますので、

はんざわいいん はつげん で き かんけつ ねが
榛澤委員、どうぞ発言してくださいませ。出来るだけ簡潔にお願いいたします。

はんざわいいん
(榛澤委員)

りようかい はつげんもう わけ さき じかん た
了解です。たびたびの発言申し訳ありません。先ほどちょっと時間が足りなくてごめんなさい。まず僕は今回この、働くことを考えるっていうふうに議題を出されて、中にはその会社からお給料をもらうことだけが働くことではないって書いてありますけども僕は役所、国も県も市町村も、その働くことを強制しないと言いながら、本音では、もっと障がい者も働けと。働くことを促すような。

せいかつ ほ ご げん ば ぼく し あ せいかつ
生活保護の現場とかで、僕もそうですし、知り合いもそうなんですけど、すべての生活保護のワーカーじゃないけど、ワーカーの中にやっぱ就労を急かすような人がある。もちろん働ける人に働くことを促すのはいいことなんですけども、本当に厳しい、目に見えない障がいだから働けそうに見えちゃうけど、働けない人に働くことを急かすというか、非常にプレッシャーをかける人がいて、精神的にすごく追い込まれてる人もいますね。僕はやっぱりこういう、給料を貰うことだけが働くということではないとは言っても、本当は僕は役所の中には、やっぱりもっと障がい者も、もっと働け働けっていうようなものが、僕は全員じゃないかもしれないけどあると思ってて、結局そうやってプレッシャーをかければかけるほど、むしろ就職に遠ざかってしまうんじゃないかと。

ほんにん いよく で すこ ま とく
そういうプレッシャーじゃなく、本人が意欲が出るまで、少し待つというか、特に精神障がいが見た目に現れない、元気そうで働けそうだから、そういうふうをやっちゃう人もいるんでしょけど、それが結果的にそういう人を追い込むことになったり、働くことから遠ざけてしまうことになるので、そういうことがないように、していただきたいと思います。はい。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部長)

いま はたら かん
はい、ありがとうございます。今の働くことに関して、よろしゅうございますでしょうか。ちょっと時間も迫ってきましたものですから、続きまして、次第の2(4)報告事項でございます。神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

じむきよく
(事務局)

ほうこくしりょう もと せつめい
報告資料2に基づき説明

かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじょうれい い しゃかい め ざ もと きほんけいかく
※神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～に基づく基本計画の概要版については、作成過程のものであるため会場限りとし、その場で回収した。

さるわたりいいん
(猿渡委員)

猿渡です。これなんですけど、例えば概要版の絵のほうに呼吸器ユーザーとか入ってくるのかなというのがひとつ、あと、中のポンチ絵、真ん中のポンチ絵は大分見やすくなっただんですけれども、この意味、絵はわかりますが、他の当事者の人たちにとって、「教育機関とは何?」、「医療機関とは何?」っていうところの「?」がいっぱいつくんじゃないかなと思っています。

それとですね、あともう1個だけ言わせていただきます。当事者目線の福祉推進条例とはっていうところ、一番下のところ大分わかりやすくなってますけれども、もうちょっと、僕らの審議会の方でも、もう少しですね、皆さんがわかりやすい書き方ができないかなと思っています。差別とか偏見とか、例えばいろいろ大きな柱がありますが、権利とか虐待とか、なかなか難しいことだと思うんですね。

なのでこれをもうちょっとわかりやすくして、皆さんが手に取れるような形で、これは総合計画審議会の中でも言ってます。僕委員やってるので。そういう中で、地域共生社会とは何っていうことをもうちょっとですねみんなの立場に立って、わかりやすくやっぱりこの当事者部会で出た意見を、いかにして、もうちょっと盛り込んで絵は絵で大事だと思うんですけど、医療機関でいろんなところあるよね、例えば医療保護入院とかいろんな入院があります。筋ジス病棟とか、いろんな病棟もあります。そういうところとかもあるんですけど、こういうのをもうちょっと分かりやすくしたほうがいいのかなって思ったのと、あともう少しですねここを、みんなで議論できたらいいのではないかなと思っています。以上です。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。下条委員。

しもじょういいん
(下条委員)

「障害者」の「害」の字が漢字で入っているのですが、ここのところ平仮名にした方がよいのではないかと思います。結構こだわっている方も多いので、たぶん気になる方もいると思います。

ないとうぶかいちょう
(内藤部会長)

はい。奈良崎委員、よろしくお願いします。

ならざきいいん
(奈良崎委員)

奈良崎です。まずすいません、すごい悪いけど、表紙が、このいっぱいの絵は重いです。いや、それをごめんなさい。裏の表紙とこの絵がマッチされていないと思うんです。

例えばおかしいけど人間って裏と表で近い絵を描いてもらうといいのかなと思ってて、
ていうのは、多分これは、ともいきアートだと思うんですけど、あんまりくどい絵を入
れちゃうと、中を見たくない、お腹いっぱいになっちゃうと思うので、そこもちょっと
改革して欲しいなと思います。

それとあと、ちょうど下条さんも猿渡さんも、すごくいいこと言ってくれてありが
とうございます。っていうのもあるんですが、本当に皆さんが思ったよりコンパクトす
ぎて。字が。何をアピールするのか、大事なことが抜けてるなっていうのをもういっぺ
ん議論したいなと思います。以上です。

（猿渡委員）

はい、猿渡です。知事の横で言うのもなんなのですが、本当に委員一人一人からその
まま意見を頂戴するっていうことも本当に1つなんですね。それもやっていただきたい
と思います。で、まして相模原の委員が3人いるんですけど、例えばなんですが、表面
に基本計画って書いてある面には、今の状態を表す。裏面ですね。神奈川憲章につい
てとか書いてあるところは、将来像の絵を、描くっていうと、わかりやすいんじゃない
かと思います。

こんなふうになったらいいなっていうと、その中身はここにちょっと大まかに書いて
あるよってそれはもう僕ら、施策審の問題でもあるのでそれをちょっと提案してみたい
と思います。作る方が大変だと思いますが、そういうふうにした方がですね将来像とし
て、今はこうだけこういうふうにしたいよね。

だったらもうちょっとその権利条約とかも近くなってくるんじゃないのって。権利
条約って障害者権利条約とかね、そういうその今の暮らしから、じゃあ神奈川県こう
いうふうな暮らしを目指してるんだよね。っていう部分が将来像が見えてくると思うの
で、ここら辺はちょっと何か考える必要があるのかなということと、やっぱり中は見づ
らいとわかりにくさと、もっとわかりやすいっていうのがどんなことかっていうのは皆
さん本当に、社会じゃないですけど、関わり方によって大分違いますよね。社会とどうや
って関わってきたか、自分が地域やいろんなところでどういうふうに関わって、どうい
う職員、いろんな人で関わってるかによって価値とか経験とかが違います。

なので、そういうところをもうちょっとわかりやすく書いてもらえると、みんなが読
みやすい、手に取ってみたいなって思えるように作りたいと思っています。以上です。

（内藤部会長）

はい、ありがとうございました。他に。はい、下条委員よろしくお願ひします。

しもじょういいん
(下条委員)

しもじょう
下条です。すいません。たぶん え か おも いがい
多分、絵とかを**は**変えようがないと思うのでそれ以外で。カ
ラーがきいろ
黄色ですね。これって結構、明度がだか
高くてまぶしく見えるんです。なので、できれ
ば、みどり
緑とかの方が目にはやさ
しく見えるかなというかん
感じがあります。わたし
私としては、緑と
かそういういろ
色のほうがみ
見やすいとおも
思いました。

ないとうぶかいちょう
(内藤部長)

はい。これにかん
関してよろしゅうございますでしょうか。ほか いけん しつもん
他にご意見、ご質問ございま
すか。よろしいですか。はい。どうもありがとうございました。ほんじつ かいぎ しんちよくとう
本日の会議の進捗等
につきまして、じかい
次回のしょうがいしゃせさくしんぎかい
障害者施策審議会でほうこく
報告させていただきます。それではマイクを
じむきよく
事務局の方へほう
お返しさせてい
かえ
た
ねが
いただきます。よろしくお願
いいたします。

じむきよく うんえい
【事務局による運営】

- ちじ ふくちじ
・知事・副知事コメント
- じむれんらく
・事務連絡